

『#グリーンフィッシュ』(1997年:イ・チャンドン[李滄東]監督)をamazon prime videoで視聴した。監督が手がけた長編デビュー作。本作は、表面的にはヤクザの抗争を描いたノワール風の作品だが、その奥には韓国社会の急激な変化と、それに翻弄される人々の姿が織り込まれている。主役は『シュリ』に出演したハン・ソッキュ [韓石圭]。

兵役を終えて車で故郷へと向かう青年 M は、赤いスカーフを巻いた女性がチンピラに絡まれているところを助けるが、女性と言葉を交わすことなく別れてしまう。やがて、M はその時の女性 Mi と再会。彼女は新興組織のボスである T の情婦で、M は彼女の紹介で組織の一員となる。T に気に入られ裏社会で頭角を現していく M だが、T に忠誠を誓いながらも Mi に恋心を抱く。そんな中、対立組織のボスが刑務所から出所し、M たちに圧力をかけてくる。T は彼らにどう対応し、M は T にどう使われるのか？

一見、ヤクザ映画に見えるが、その皮をかぶった社会批評ということだ。1990年代の韓国では新都市開発が進み、伝統的なコミュニティが急速に失われていく。主人公 M の家族も、かつての故郷から押し出され、郊外で食堂を営むようになる。これは「原住民が土地を奪われ、移住者にサービスを提供する」という構図であり、監督はこの状況を「恐ろしくて致命的な肖像」と表現している。

主人公が兵役を終えて帰郷するが、故郷は変わり果て、家族もバラバラになっている。社会に居場所を見つけられない彼は、裏社会に足を踏み入れる。これは、韓国の若者が兵役後に直面する不安や空虚さを象徴している。主人公の運命を狂わせる「運命の女」Mi も、単に妖艶なだけではなく、情緒不安定で傷ついた存在として描かれている。

タイトル「グリーンフィッシュ」の意味は、純粋さと脆さの象徴ということだ。また、過去の記憶(幼少期の家)と現在の現実(新都市のアパート群)の間に存在する、取り残された人々の象徴でもある。

この作品は、ヤクザ映画の形式を借りながら、韓国社会の急激な変化とその中で生きる人々の孤独、純粋さ、そして喪失を描いた、非常に詩的で政治的な映画である。日本のヤクザ映画を高く評価する人がいるが、そのような深読みをするからなのだろうか。

韓国の徴兵制度

対象者：健康な韓国人男性（通常 18 歳～28 歳）が対象。女性は任意で志願可能。

兵役期間：陸軍で約 18 か月、海軍・空軍はそれより長め。

配属先：南北軍事境界線沿いや遠隔地に派遣。

目的：北朝鮮との緊張関係を背景に、国防力の維持が主な目的。

問題点として

- ・多くの若者が「青春時代の無駄遣い」と感じており、キャリア形成や学業への影響を懸念している。
- ・北朝鮮への脅威認識が薄れ、「敵とは思っていない」と語る若者も増加。
- ・男性だけが兵役義務を負うことに対する不満がある。
- ・少子化により兵力確保が困難になっており、制度の見直しや女性の徴兵導入が検討されている。
- ・兵役期間の短縮や外部との連絡制限の緩和などが検討中である。

他のイ・チャンドンの作品

『ペパーミント・キャンディー』（1999 年）：時間逆行構造で描く個人と国家の記憶（私が全ての映画の中で best 1 とする作品）

『オアシス』（2002 年）：社会的弱者の愛と孤独、倫理的挑戦

『シークレット・サンシャイン』（2007 年）：喪失と信仰、赦しの不可能性

『ポエトリー アグネスの詩』（2010 年）：詩と倫理、日常に潜む美と暴力

『バーニング 劇場版』（2018 年）：村上春樹原作、階級・欲望・空虚の寓話

また、2023 年には彼の人生と作品世界を描いたドキュメンタリー『イ・チャンドン アイロニーの芸術』も公開された。

評価：★★★★★